カワハギとコロナ

カワハギを釣りあげる時、ひらひらと揺れ、グイグイ引かれ、凄い手ごたえがある。まさに、子供のころ、凧揚げに失敗して、凧がぐるぐると空中に舞いだし、旨く凧を揚げられない時と同じ感触が手元にのこる。

鎌倉のヨットハーバー

稲村ケ崎沖、少しうねりがあるが、5 人でカワハギ釣りにトライ、水深,約30m、岩場で砂地、釣りのベテランから，餌のつけ方から、竿の取扱いまで、指導をして貰いながら、餌のアサリ、アイナメを釣り針に付ける。やはり、今日は、うねりが強く、ヨットの数が少ないようだ。でも、江ノ島の向こうには、真っ白な富士山、山岳家の小島烏水が、スイスのアルプスの山頂にたどり着いた時、思わず、富士山の方向（想像して）に向かって、拝礼したとの表現がある、そんな気分が感じられる、富士山は、崇高で素晴らしい。

鎌倉沖

釣りのベテランは、仕掛けと、竿の手配で多忙、真似ながら釣り糸（先端に、重りの鉛が付いている）を海底に接触させてから、上下に動かす、餌は、3 か所に付けている、感触なし、引き上げてみると、餌取られ！

国際信号に使われる旗印

うねりの中で、餌付けは、かなり難業、針が、ズボンに絡む、思いもよらぬことばかり、アサリの水管に針を絡ませ、そして、全体を取り込むように針に巻き付ける。第3投目をやってみる。

珍しく、カワハギを釣りあげた。

ふぐ、ギザミは釣れている様だが、結局、カワハギ釣りは、一尾のみだった。

うねりが強くなってきたため、早めの帰港となった。

カワハギをゲット

江の島に近づくと少し、波穏やかな感じ、艇を係留し、持ち寄った食料で、昼食。山行でとる食事も、粗食であっても美味しいが、船上では、格段に美味しさが増す。アルコールが飲めるのも無上に魅力だ、この江の島では、釣りあげた魚を捌いてくれるレストランがあるそうだ。

小生は、カワハギを頂いたので、持ち帰り、煮つけにして頂いた、美味しい。刺身、肝が特に美味しいそうだが、そこまで出来なかった。数日後、テニス仲間へ、釣りのお世話へのお礼を言いながら、次回は、佐島へ、二人乗りのボートでカワハギを釣ろう！と話が弾む！

艇上の御馳走！

少し微熱が感じられるので、検温、37 度、コロナの検診を受ける。約 3 時間後、コロナ感染、陽性ですとの事、ついに、コロナに釣り上げられてしまった！油断大敵、何に、釣りあげられるか？予測はできない。カワハギを釣りあげた、お返しかも知れないと、感じるばかり。

自宅の 2 階自室に監禁されている。自室のホームバーも閉鎖、情けなし、家内の運んでくれる食事に感謝、「好事魔多し」の数日なり、しかし、何時か、カワハギで一献やれる時もあるだろう？保健所から連絡あり、7 日後、外出可能です！との事、週末から、活動が出来る。

嬉しい限り。

岡本